

11章 その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

(1) 基本計画における実践的・試行的な活動

① いづろ・天文館地区回遊空間づくり社会実験

いづろ・天文館地区において快適な回遊空間を提供し、回遊性の向上を図るための事業を展開する。

[実施期間]

平成22年10月1日(金)～平成22年10月31日(日)

[実施場所]

中央公園、テンパーク通り、エンパイヤ広場等

[実施目的]

- ・公園や商店街にオープンカフェ、マルシェを設置するなどの社会実験を実施し、いづろ・天文館地区における来街者の滞留時間の延長や、回遊性向上についての効果を検証する。

[実施内容]

- ・中央公園や商店街におけるマルシェ、オープンカフェの設置
- ・通り(壁面、路面、電柱、フェンス等)のアート活用
- ・エンパイヤ広場における「ちょい飲みガーデン」等イベントの実施

[実験結果]

- ・歩行者通行量は、全体(6地点)で10%増加したほか、滞留時間が20分程度延長しており、相応の効果が得られた。
- ・参加者の評価は良い一方、この場所に来るまで知らなかったなど周知方法に課題が残った。

まちラボの楽しみ方

- ① 壁面アートやフェンスアートの作成現場・作成過程を楽しもう。
- ② 中央公園からエンパイヤ広場まで広い範囲を回ってみよう。
- ③ 普段知らない、行ったことのない天文館の穴場スポットを探検しよう。

七味小路

壁面・フェンスアート

- フェンスアート 10/1(金)
(鹿児島情報ビジネス専門学校による直書き)
- 壁面アート
10/2(土)から土日に描き進め
10/17(日)に完成

中央公園

**オープンカフェ
マルシェ** (野菜・果物等の青空市場)

- 10/9(土)
- 10/30(土)～31(日)

11:00～夕方

天文館本通り ほか

各種イベント 10/9(土)

- スポーツイベント 11:00～13:00
(参加体験型イベント)
- ウォークラリー 13:00～16:00
(天文館地区探検イベント)

エンパイヤ広場

各種イベント

“ちょい飲みガーデン”

- 10/25(月)～29(金) 17:00～20:00
- 10/30(土) 11:00～20:00

芝生広場で軽く一杯!
ビールやおつまみもご用意
待ち合わせやふらっと1人でも

“エコオブジェ”

- 10月中旬～30(土)

ペットボトルでオブジェの制作
(タラデザイン専門学校による制作)

“キッズチャレンジ”

- 10/30(土) 11:00～18:00

白熊早食い競争(賞品あり)
水族館タッチプール
ボンボンつりなどミニ緑日

会期 2010年10月1日(金)～10月31日(日)
 場所 いづろ・天文館地区
 主催 いづろ・天文館地区社会実験実行委員会
 ((株)まちづくり鹿児島、鹿児島市など)
 問い合わせ先 たまちサロン 099-213-9574

②コミュニティサイクル導入検討社会実験

国内外で様々な方式でのシステム導入が進んでいるコミュニティサイクルについて、本市においても導入を検討しており、平成23年度にはコミュニティサイクル導入のあり方について基礎データを得るための社会実験を実施した。

〔実施期間〕

平成23年10月5日（水）～平成23年11月13日（日）の40日間

〔利用時間〕

午前9時～午後6時（貸出は午後5時30分まで）

〔利用条件〕

13歳以上・身長140cm以上（登録には身分証明書が必要）

〔実施場所〕

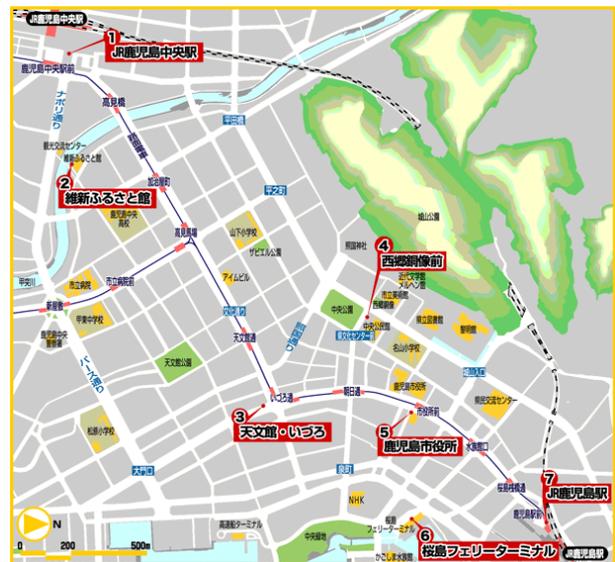
サイクルポート：7箇所（鹿児島市中心市街地内）

自転車：70台

〔事業目的〕

コミュニティサイクルは、複数のサイクルポートを配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるシステムである。

このため、中心市街地での行動範囲を拡大し回遊性を高め、また、クルマから公共交通への転換など多くの効果が期待されている。



〔社会実験の結果〕

1) 利用状況

今回の社会実験での利用は、1日平均77回で平日：休日割合は1：1.57と休日の利用が多かった。回転率は、平日は1.0回/台を下回り、休日は1.45回/台であった。

■ 利用回数・回転率

延べ利用回数	3,091	回
平日	1,674	回
休祝日	1,417	回
1日平均利用回数	77.3	回/日
平日	64.4	回/日
休祝日	101.2	回/日
回転率	1.10	回/台・日
平日	0.92	回/台・日
休祝日	1.45	回/台・日

* 回転率：1台あたりの1日の利用回数＝利用回数÷自転車台数（70台）

■ポート別の利用実態

	返却ポート							総計
	①JR 鹿児島中央駅	②維新ふるさと館	③天文館・いづろ	④西郷銅像前	⑤鹿児島市役所	⑥桜島フェリーターミナル	⑦JR 鹿児島駅	
①JR 鹿児島中央駅	131	146	352	152	50	64	15	910
②維新ふるさと館	88	11	68	65	14	18	4	268
③天文館・いづろ	270	43	73	64	75	81	54	660
④西郷銅像前	145	34	63	85	39	69	27	462
⑤鹿児島市役所	52	10	93	26	55	29	18	283
⑥桜島フェリーターミナル	86	9	101	67	26	11	30	330
⑦JR 鹿児島駅	25	3	51	24	25	24	26	178
総計	797	256	801	483	284	296	174	3,091

2) 登録者、利用目的

期間内の登録者数は、鹿児島県外居住者数が県内居住者数を上回った。利用目的では、観光利用が5割を占め、その大半は1日だけの利用であった。

■登録者数

居住地	登録者数	割合
鹿児島県内	510人	42.3%
鹿児島市内	360人	29.8%
鹿児島市外	150人	12.5%
鹿児島県外	675人	56.0%
国外	11人	0.9%
不明・未回答	9人	0.8%
合計	1,205人	

■利用目的

居住地	観光	業務	買い物	通勤・通学	その他
鹿児島県外					
1日利用	64.0%	9.4%	12.7%	0.4%	13.5%
定期利用	8.8%	27.6%	13.5%	14.1%	36.0%
全体	49.4%	14.2%	12.9%	4.0%	19.5%

③かごしままち巡り推進事業

中心市街地の魅力をさらに高めるために、錦江湾や桜島、特性のある歴史といった、本市ならではの資源を生かした、回遊性を向上させる新たな取組について、県内外の大学生との連携等により、若い感性や専門的知見を生かした調査研究を行い、65の提案をとりまとめた。

[実施時期]

平成22年度

[調査研究の視点]

地域にとって当たり前ものを観光資源として見出す「外から」の視点、地域の賑わいや活性化のための新たな活動に欠かせない「若者」の視点、旅行や商品に関する情報感度の高い「女性」による視点、これらの3つの視点により検討を行った。

[主な提案]

提案名	提案概要
テンパーク通りの景観と賑わい創出	・ 中心市街地のいづろ・天文館地区から中央公園、歴史と文化のゾーンをつなげる天文館通1号線（通称テンパーク通り）の中央部にプランター群を連続的に配置し、重要な回遊ポイントとする。
みんなの天文館公園	・ 南九州随一の繁華街の天文館に位置する天文館公園を回遊性の向上に役立てる。
サイクリング・ロード	・ 鹿児島中央駅を起点に街なかを巡るサイクリング・ロードを整備し、まちなかの回遊性を、取り囲む道路網における移動ツールを向上させることで補強する。
自転車ポート	・ 自転車を用いた回遊性の創出のため、地元住民も観光客も思い思いに自転車を活用し、気軽にレンタルができるよう、まちなかへ戦略的に自転車ポート（置き場）を設置する。
アーバンステーションカゴシマ@	・ 市民同士、市民と観光客、観光客同士の出会い・交流を誘発する仕掛けとして、空き店舗や既存ギャラリーを活用して、模型やパネル展示などで、まちの魅力を紹介する拠点施設：アーバンステーションカゴシマを開設する（平成23年度に社会実験を実施）。

〔2〕都市計画との調和等

（1）第五次鹿児島市総合計画との整合

総合計画では、“中心市街地の活性化”に関する方針の中で、「にぎわい創出と回遊性の向上」「都市型観光の振興」「商業・業務機能の集積促進」を図っていくことが示されており、中心市街地を回遊させることによって交流人口を増やし、にぎわいを創出していくことを目的としている。また、“地域特性を生かした観光・交流の推進”では、観光・コンベンションの振興や国際交流の推進が示され、“地域産業の振興”では、商業・サービス業の活性化が示されている。

（2）かごしま都市マスタープランとの整合

都市づくりの基本理念として、多様な都市機能が集約された、すべての人々にとって安心、快適でクルマに過度に依存しない社会への誘導を図り、社会経済の成熟化と人口減少・超高齢化に対応したコンパクトな市街地を形成する集約型都市構造の実現をめざす必要があるとしている。

中央地区（鹿児島中央駅周辺及びいづろ・天文館地区等）については「誰もが利用しやすい広域拠点づくり」、「かごしまの景観、歴史文化を感じさせる都市空間の形成」及び「にぎわいを維持、回復する都心居住の回復」を、また、上町地区については「にぎわいを失いつつある鹿児島駅周辺地区の拠点機能の再生」、「かごしま発祥の地としての貴重な歴史、桜島、錦江湾の眺望・景観などの地域資源の活用」等を主要課題としている。

（3）鹿児島市都市景観ガイドプラン2006（平成18年3月改訂）との整合

本プランは、総合計画や都市マスタープランなど上位計画の都市像を景観の視点から実現するための総合的な方策であり、“鹿児島らしさ”の保全・創出に向けた都市景観形成の指針を定めており、「特色ある自然と固有の歴史・文化を生かし、市民・事業者・行政が協働で進める安全で、快適さと潤い、活力に満ちた愛着と誇りが持てるふるさとかごしまの都市景観」を目標像にしている。

（4）鹿児島市景観計画、景観条例との整合

「鹿児島市都市景観ガイドプラン」を踏まえ、愛着と誇りが持てるふるさとかごしまの景観づくりに向けて、平成20年6月に鹿児島市景観計画及び景観条例を施行した。

本計画では景観形成の目標及び基本方針を次表のとおり定め、市域を4つのゾーンに区分し、「市街地ゾーン」においては、「多様な都市機能の集積に対応した秩序ある景観の形成」、「海との近接性や台地からの眺望景観等に配慮した景観の形成」を景観形成方針として定めている。

また、自然と市街地が一体となった雄大な眺望景観、歴史的・文化的価値を持った景観を保全し、次世代に引き継ぐため、城山展望台から桜島への眺望及び桜島フェリーが通過する沖防波堤の突端から城山への眺望を確保する範囲とその範囲内における建築物等の高さの限度や、景観形成重点地区候補地等を定めている。

【景観形成の目標、景観形成の基本方針】

1. 個性ある骨格景観の形成により、鹿児島らしさを創りあげます。	(1) 骨格景観の要素を組み合わせ、観光振興にもつなげる個性ある景観づくりを推進します。
2. 地域のまちづくり計画等と連携し、地域の魅力を引き出す景観形成を推進します。	(2) 地域の顔づくりやまちなみの整備等、それぞれの特性に応じた景観形成を推進します。 (3) 誰もが安心して暮せる景観づくりを推進します。
3. 地域の景観資源を活用し、景観の魅力の向上を図ります。	(4) 豊かな自然や田園、貴重な歴史・文化資源を生かした景観形成を推進します。 (5) 道路や公園、眺望など地域を特徴づける景観資源を生かし、個性豊かな景観形成を推進します。
4. 市民・事業者・行政が協働してみんなが誇れる景観形成を進めます。	(6) 良好な景観形成を進めるためのルールづくりを促進します。 (7) 景観形成に関する意識やモラルの向上を図ります。 (8) 市民参加の景観形成を推進します。

(5) 屋外広告物条例との整合

屋外広告物は、まちを訪れる人々を適切に案内・誘導し、人々に様々な情報を提供するなど、生活や経済活動に欠かせないものであるが、反面、無秩序にまたは大量に設置されることで、良好な景観や自然の風致を損ねることに繋がり、また、落下や倒壊などにより危険を及ぼすこともある。これらのことから、鹿児島市屋外広告物条例等によって景観に配慮した屋外広告物の規制・誘導を行っている。

[規制等の概要]

- ・ 禁止広告物：ひどく汚れたり、倒壊、落下のおそれのあるものなど
- ・ 禁止物件：橋りょう、石がき、街路樹、信号機、電柱など
- ・ 地域別における規制区分の設定
- ・ 広告物の種類及び規制区分ごとの許可基準の設定
- ・ 広告物協定地区及び広告物活用地区制度 など

[3] その他の事項

(1) 環境に配慮した取組

本市では、平成16年7月に「鹿児島市みんなでまちを美しくする条例」を制定し、平成20年10月には「かごしま環境都市宣言」を発表するなど、全市的に環境に配慮した取組を行っており、中心市街地においても、快適な環境を創出するため、市民、事業者、行政が共通認識に立ったまちづくりを推進している。

かごしま環境都市宣言

私たちのまち“かごしま”は、桜島、錦江湾、甲突川など、豊かな自然と調和した、世界に誇れる美しいまちです。

私たちは、この恵まれた自然の中で、先人が育んできた歴史や文化を大事に受け継ぎながら、暮らしています。

その一方で、今日の便利で快適な生活は、私たちの愛してやまない“かごしま”に、そして、かけがえない地球に、深刻な影響を与えています。

いまこそ私たちは、地球と共に生きていることを深く認識し、この大切な地球の環境を、郷土“かごしま”の環境を、私たち自身で守り、より良いものにしていかなければなりません。そして、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

ここに、全ての市民は、共に力を合わせて、環境にやさしい持続可能なまち“かごしま”を築いていくことを宣言します。

平成20年10月10日
鹿児島市

①花と緑の回廊（都市の杜）整備

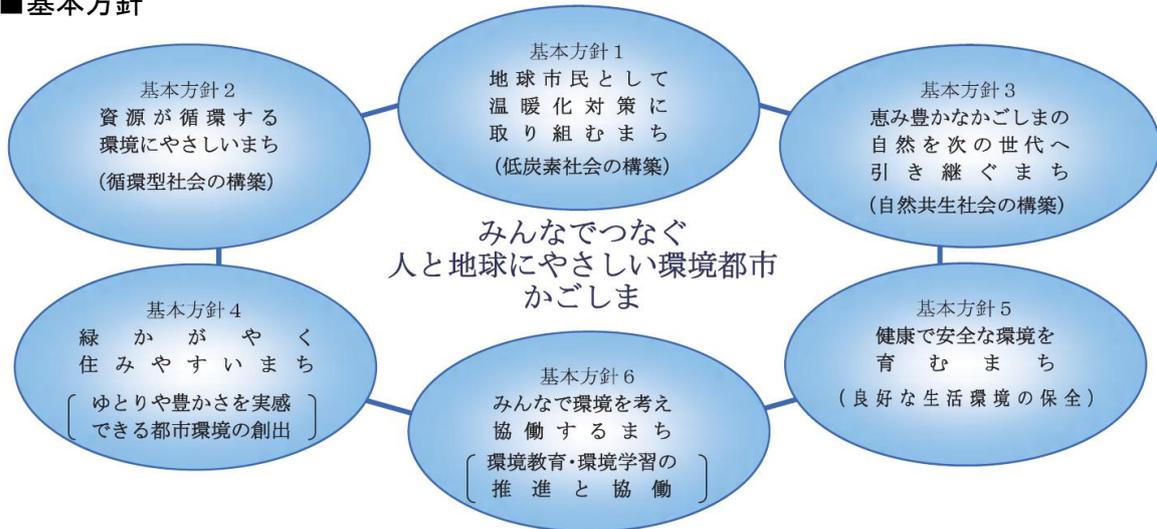
自然林の残る城山・多賀山などの深緑、甲突川から錦江湾に注ぐ水の流れ、これら豊かな緑と水とともに鹿児島の風土は培われている。この美しい自然と人が共生する環境を保全する中で、既にある市電軌道敷の芝生や街路樹などの緑の道に加え、新たな魅力としてJ T跡地、市役所周辺、鹿児島駅などに市民が憩える都市の杜（花緑拠点）を創るとともに、両地点間を結ぶ街なか（中心市街地）を花と緑が彩る回廊として演出し、回遊性を楽しめる都市空間を創出することを目的として、以下の施策を実施する。

①都市の杜づくり	■ J T跡地、市役所周辺、鹿児島駅などを市民が憩える都市の杜（花緑拠点）として、市民等が参画する中で、整備していきます。	建設局・ 企画財政局
②花と緑の回廊づくり	■ 市民、企業、地域・NPO等の緑化活動を支援し、それぞれが役割分担しながら、街なか（中心市街地）に花と緑の回廊を協働で創っていきます。	建設局・ 教育委員会
③環境・ 景観保全活動	■ 緑化活動への参加者、参加企業を集め、環境保全活動団体のネットワークを生かし、拡充することで活動の輪を拡げます。また、環境保全（緑化）活動への支援を行います。	環境局・ 建設局
④にぎわい創出活動	■ 花と緑の回廊整備に合わせ、商店街等が行うにぎわい創出に向けたイベント等を支援します。	経済局・ 建設局
⑤路面電車の 魅力向上	■ 観光レトロ電車を製作するとともに、花と緑の回廊と一体となって、多彩な路面電車を生かす取組を進めます。	交通局

②環境基本計画、地球温暖化対策アクションプラン

環境基本計画では、「みんなでつなぐ 人と地球にやさしい環境都市 かがしま」を望ましい環境像に掲げ、環境への負荷の少ない“地球にやさしいまち”を目指すこととしている。

■基本方針



(2) いづろ・天文館地区の商店街活性化への取組

①南九州随一の繁華街 いづろ・天文館地区の概要

いづろ・天文館地区には、現在11の商店街振興組合が存在し、それぞれの通りにおいて訪れて楽しい商店街活動が実施されている。これら11の商店街振興組合の上部団体として昭和59年12月に中央地区商店街振興組合連合会（以下、「中振連」という。）が設立され、運営されている。理事長以下の役員は、組合員である各商店街振興組合の理事長で構成されており、当地区の活性化を図るため相互に連携した活動を展開している。

これら11の商店街振興組合の地区面積は約15haにも及び、JR鹿児島駅とJR鹿児島中央駅のほぼ中間に位置している立地性から市営電車、バス等が頻繁に往来し、交通アクセスが充実している。

▼中振連を組織する11の商店街振興組合 (平成24年6月現在)

商店街名	設立年月日	組合員数
① いづろ商店街振興組合	昭和46年 4月	54
② 天神おつきや商店街振興組合	昭和51年 3月	37
③ 天文館にぎわい通商店街振興組合	昭和51年 6月	41
④ 中町ベルク商店街振興組合	昭和53年 9月	20
⑤ 天文館はいから通商店街振興組合	昭和54年 4月	50
⑥ 天文館本通商店街振興組合	昭和56年 6月	40
⑦ 中町コア・モール商店街振興組合	昭和59年 9月	28
⑧ 照国表参道商店街振興組合	昭和60年 8月	53
⑨ 納屋通り商店街振興組合	昭和60年11月	71
⑩ 天文館一丁目商店街振興組合	平成 6年 5月	73
⑪ 金生通り商店街振興組合	平成10年 3月	27
合計	11商店街	494

②バリアフリー天文館の開催

「心はもっと優しくなれる」をスローガンに、いづろ・天文館地区の商店街が一体となったイベントとして、バリアフリー天文館を開催している。日ごろ繁華街に出る機会の少ないお年寄りや障害のある方を招き、車椅子で気軽に食事や買い物をし、健常者とのふれあいの場をつくり、「全ての人に優しい街づくり」を推進している。

③天文館フリーチケットの活用

いづろ・天文館地区の来街者への駐車場対策として実施している事業の一つに、天文館フリーチケットがある。これは当地区商店街の加盟店で一定額の買い物をするともらえる公共交通チケットである。

このフリーチケットは、市営電車、市バス、民間バス、路外駐車場で100円分の乗車券・駐車券として使用可能である。

④3セク運営駐車場「セラ602」の活用

いづろ・天文館地区に隣接する中央公園の地下に整備された都市計画駐車場「セラ602」は、鹿児島市、鹿児島県、鹿児島商工会議所、そして当地区の商店街等が出資して設立された第3セクター方式の地下駐車場として平成4年8月に開業し、鹿児島中央地下駐車場株式会社が運営している。

利用状況は、平成8年度の年間52万台がピークで、平成23年度は年間31万台程度に減少している。鹿児島中央地下駐車場株式会社では、駐車場利用者の拡大に向けて、徹底した経営改善に取り組むとともに、第1期基本計画において整備した天文館シネマパラダイスとの連携で、映画観覧後の半券を活用した4時間無料サービスを実施し、利用者拡大といづろ・天文館地区への来街者回遊に貢献している。また、商店街との連携による駐車料金2時間無料等のサービスや、市による「にこにこ子育て応援隊」認定施設として、女性や子育て世代向けに使いやすさを向上させる取組などを実施し、利用者増による当地区への来街者増と利便性向上に努めている。

⑤自主防犯パトロールで安心・安全なまちづくり

特定非営利活動法人「クリーンパトロール・鹿児島」（2006年8月にNPO法人化）は、1988年7月から安心安全な街づくりと青少年の健全育成を目指して、夜のいづろ・天文館地区の深夜パトロールを実施している。現在は、商店街や住民らも加わり、青色回転灯をつけた“青パト”による巡回パトロールの実施など、“街の灯台守”として、当地区の安心安全なまちづくりを推進している。

⑥防犯カメラシステムの導入

商店街や店舗の財産を守る目的で、平成15年11月に防犯カメラ（49台）システムをいづろ・天文館地区内の各商店街に導入し、その後、平成17年に増設、現在、55台の防犯カメラが24時間稼働している。

〔設置概要〕 商店街に7台のレコーダーを設置。全55台のカメラを制御し、画像を記録。

〔運用〕 プライバシーに配慮し、画像の取り扱いに関しては運用要領を作成し、運用委員会で厳格に管理。

⑦その他の取組

商店街や町内会、社交業組合等で組織する天文館連絡協議会が主催して、平成5年8月6日の豪雨災害からの復興を記念して始まった「天文館まつり」は、元気な繁華街天文館づくりを目指して毎年開催され、にぎわいの創出とまちの活性化に寄与している。